

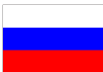
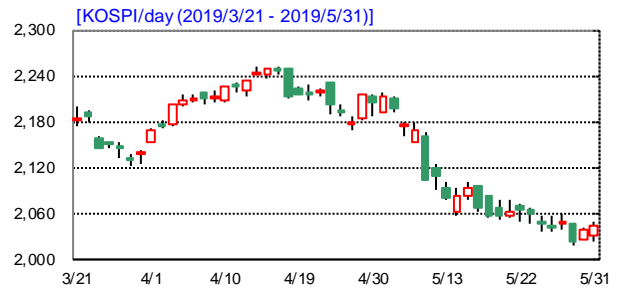


【韓国】 総合指数は週間で0.2ポイント安と4週続落、今週は買い戻しが支えか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.2%安と小幅ながら4週続落した。米中対立の長期化懸念が引き続き相場の重荷となる半面、値ごろ感から買い戻しが入り、相場を支えた。週明け27-28日は、米市場のメモリアルデー休場で材料難の中で小動き。29日は米中交渉の難航に対する警戒感で1%超の下げとなり、1月4日以来およそ5カ月ぶりの安値で引けた。トランプ米大統領が中国との通商合意について「我々は用意できていない」と発言したことなどが嫌気された。一方、週後半の30-31日は値ごろ感を意識した買いが優勢。ハイテク株の一角や造船株が買われた。今週は米中貿易摩擦や世界経済の後退懸念が相場の重荷となる半面、引き続き買い戻しが入りやすい状況か。国内では5月CPI、1-3月期GDP改定値などが発表される。

▼指数チャート

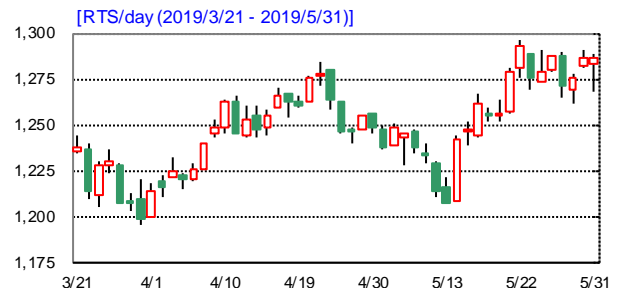


【ロシア】 RTS 指数は週間で0.6%高と3週続伸、今週は米国発の貿易摩擦が重し

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で0.6%高と3週続伸。対ドルでルーブルが下落したものの、業績改善が好感された主力銘柄の上昇が指数を押し上げた。週明け27日は原油相場の上昇を受け、資源株を中心に買われた。その後は、米中貿易戦争の激化・長期化懸念や原油相場の反落を受けて指数は前週末の水準を割り込んだ。ただ、ルクオイルの1-3月期の純利益が市場予想を上回ったことに加え、ロスネフチが税優遇策を受けたとの報道やガスプロムの1-3月期決算での大幅増益などが好感され、指数は29日から31日まで3日続伸した。個別銘柄では、石油のタトネフチ(7.4%高)、ロスネフチ(2.4%高)、天然ガスのガスプロム(5.2%高)などの上昇が指数を押し上げた。今週は、米国発の貿易摩擦への警戒感が上値の重しとなるか。

▼指数チャート



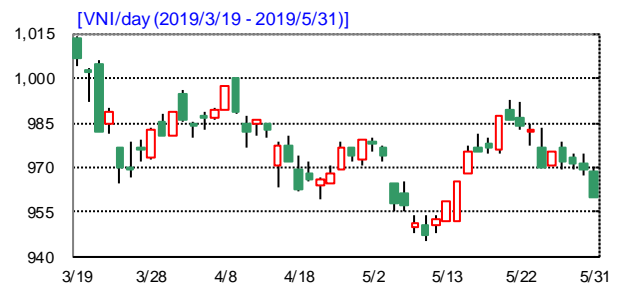
【ベトナム】 ベトナム指数は1.0%安と続落、今週は米中・米墨間の貿易問題が重

しか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.0%安と続落。米中貿易摩擦の激化・長期化懸念に加え、米国がメキシコに対して制裁関税を課すとの発表を受け投資家心理が悪化した。週明け27日は前週末の米国株高を背景に上昇してスタートしたが、その後は米中貿易戦争の激化に対する警戒感でリスク回避が強まった。トランプ米大統領が中国とディールを行う用意はできていないと述べ、中国も対抗手段としてレアアース対米輸出禁止を示唆。米国がメキシコに対して制裁関税を課す動きも嫌気され、指数は31日まで4日続落となった。個別銘柄では、ベトナム投資開発銀行(3.1%安)、ピンホームズ(3.0%安)、ペトロベトナム・ガス(2.1%安)など時価総額上位銘柄の下落が指数を押し下げた。今週は米中と米メキシコ間の貿易問題が上値の重しか。

▼指数チャート

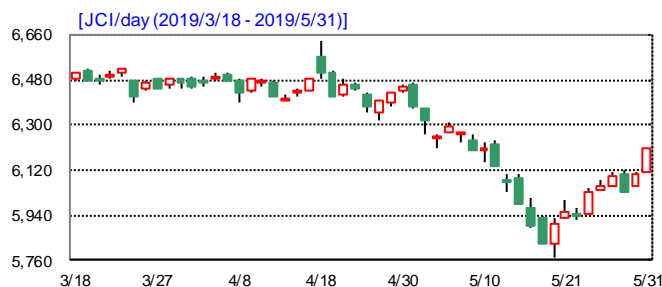


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.5%高、今週は断食明け大祭で 1 週間を通じて休場

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 2.5%高と続伸。5 月月間では 3.8%安。先週は荒い値動きが続いた。週初の 27 日は 3 営業日続伸したものの、28 日はバンク・ネガラ・インドネシアとテレコムカシ・インドネシアが下げを主導し、前日比 1.1%安と反落。一方、29 日は値ごろ感のある銘柄に買い戻しが入り、1.2%高と反発した。祝日を挟んだ 31 日は米 S&P がインドネシアのソブリン格付けを投資適格の「トリプル B」に引き上げたことが好感され、指数は終値で前日比 1.7%高と 3 週間ぶりに 6200 ポイントを回復して引けている。今週は断食明け大祭のため 1 週間を通じて休場。取引再開は 10 日となる。

▼指数チャート

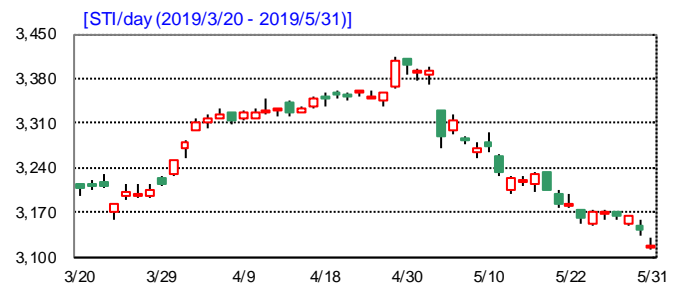


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.6%安、今週は 5 月の製造業 PMI に期待

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.6%安と 4 週続落。5 月月間では 8.3%安。先週は週初に小幅ながら続伸したものの、その後は週末まで 4 日続落と軟調だった。週半ばの 29 日までは小動きで推移したが、30 日は米中貿易交渉で中国が報復措置としてレアアース（希土類）の対米輸出規制を検討していると報じられたことが指数を押し下げた。31 日も金融株が下げを主導し、指数は終値ベースで約 5 カ月ぶりの安値を更新して引けている。今週は 3 日の取引終了後に 5 月の製造業 PMI が発表される予定で、景況感の分岐点となる 50 ポイントを維持できるかが焦点。5 日はハリラヤプアサ（断食明け祭）のため休場。

▼指数チャート

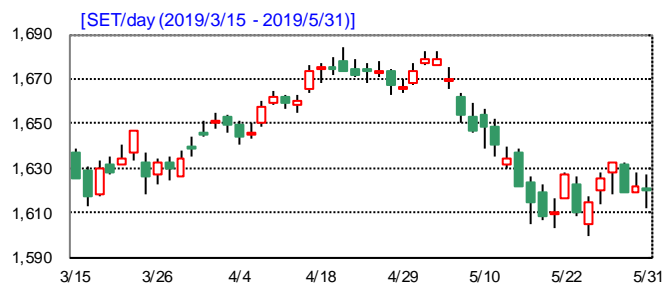


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.4%高、親軍勢力が連立政権樹立に意欲

SET 指数は週間で 0.4%高と続伸。5 月月間では 3.2%安。先週は政局の動向と原油の値動きが指数を左右した。週初の 27 日は、3 月の総選挙で第 2 党となった親軍勢力「国民国家の力党」が下院での過半数獲得を目指して他党に連立政権への参加を要請し、買い材料と受け止められて続伸。28 日は 4 月の鉱工業生産が前年同月比 2.0%増と市場予想を上回った効果で買われた。一方、29 日は原油価格の下落に加え、タクシン元首相派の「タイ貢献党」が他党に連立への不参加を呼び掛けた動きが嫌気されて反落。週後半は小幅な値動きで推移した。今週は 4 日に 5 月の CPI が発表される。3 日は王妃誕生日のため休場。

▼指数チャート

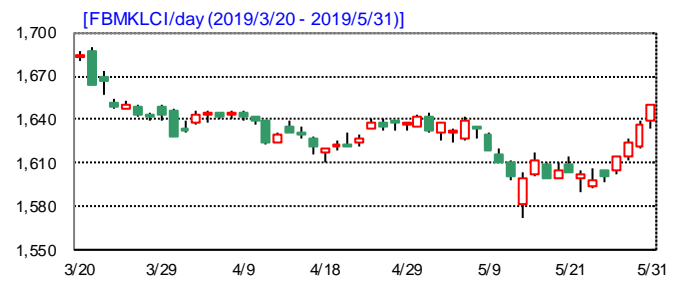


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 3.3%高、今週は 4 月の貿易統計に対する反応が焦点

クアラルンプール総合指数は週間で 3.3%高と 5 週ぶりに反発。5 月月間では 0.5%高。先週は週初から 5 日続伸と堅調に推移した。27 日は前週までの反動で買われ、4 営業日ぶりに反発してスタートすると、大商いとなった 28 日は中国株の上昇に連動して続伸。その後は、複数の外国金融機関のマレーシア株に対する投資判断の引き上げや、主要企業の 1-3 月期の業績が予想から上振れしたことが買い材料となり、31 日には終値で約 2 カ月ぶりの高値を更新して取引を終えている。今週は 3 日発表の 4 月の貿易統計に対する市場の反応が焦点。4 日はハリラヤプアサ前日のため半日立ち合い、5-6 日は休場となる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。